



【生月病院】

12月の1カ月間を研修させていただきました。九州といえども12月の寒さは本物だと思っていましたが、その寒さは想像を超えるもので、病院が海の目の前かつ高地にあるせいか、毎日の強風と冷たい風に悩まされていました。しかし、病院の先生方、スタッフの方、そして患者さん達、町の人達みなさんが優しく接してもらったおかげで楽しい研修生活を送ることができました。3週目ごろから完全に自分の言葉が方言になっていました。12月ということもあり予防接種を多く行う機会や、訪問診療や訪問リハビリなど大学病院と異なる経験を多くできました。プライマリ・ケアだけでなく、プライマリ・ヘルスケアの重要さも学んだ1カ月となりました。

埼玉県で大学生活、研修生活を送ってきましたが、元々隣の佐賀県の出身であるため、地元に戻った時は再度遊びに行きたい町になりました。あっという間の生月病院での研修生活になりましたが、院長先生をはじめ多くのスタッフさんの協力があり素晴ら

しい研修を行うことができました。ありがとうございました。

埼玉医科大学病院 中尾 嘉修

【平戸市民病院】

寒さもめっぽう強くなり、志々枝のインシシも冬眠して路上に出てこなくなった十二月初旬。今月は3名の研修医がお世話になりました。毎日多数の健診をこなし、予防医学の必要性を改めて学びました。外来や訪問診療では、日々経験する症例や年齢の幅広さに圧倒されながら幅広い経験と知識の重要性を認識しました。離島での実習では、実際に携わることで人と人との信頼関係を基盤とした医療を学ぶことができました。

一ヶ月の地域医療研修を終え、自然に囲まれた環境のなか平戸市民病院の多くの方々にお世話になりました。今回学んだことを今後の糧とし、それぞれの研修先でも鍛錬していきたいと思えます。

横浜労災病院 高梨敏史、
北里大学病院藤野庄太郎、
長崎大学病院 菅野恵也

【柿添病院】

地域研修として、柿添病院で一か月間勉強させていただきました。柿添病院では、病棟・外来業務、週2~4件の手術といった病院内研修に加え、保健所実習や乳児健診、訪問診療、離島への訪問リハビリなどの病院外の研修もさせて頂きました。患者さんと医療スタッフとの距離が近いのが印象的で、患者さんの住んでいる場所や家庭環境など、患者さんの背景を考慮した医療は、とても勉強になりました。また医療資源や医師の数が十分とは言えないなかで、島中の患者さんを診療する事に、難しさややりがいを感じました。医療は場所や人、状況によって変化していくのだと体感することができました。

平戸は綺麗な海に囲まれ、ごはんも美味しい島です。病院のスタッフやコメディカルの方はみな優しく、ながさき県北地域医療教育コンソーシアムでは、全国の研修医と交流する事も出来ました。皆様のおかげで、とても充実した、忘れられない一か月となりました。ありがとうございました。

大屋 祐一郎(九州医療センター 研修医2年次)、藤川 正弘(静岡済生会総合病院 研修医1年次)

平成26年12月31日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム
<http://hekichi-byoinsaisei.net/agonet/>